

H.28年
(2016年)

三月 (今月の掲示板)

真宗大谷派・願成寺

縁(条件)により喜・怒・哀(悲しい)・楽の心が起こる

仏教は『人は、なぜ苦悩するのか』を問い、『どうすれば幸せになれるのか』を教えます。今、目に見え・心に思うこと(現実)に満足できないのが人間です。人は誰でも真実 || 真理を知らないが、お釈迦様は『真実から現実を見直す教え』を広めました。仏教の基本は『因縁生起 || 縁起』です。『縁起がよい・悪い』などと言うのが、『因』は原因・『縁』は条件・『生起』は因と縁により生じる結果で、縁起とは物事の正しい筋道 || 道理です。お釈迦様は、『因よりも縁の方が重要』と説かれました。例えば、同じ親の子供(因)でも、生活習慣(縁)が異なると健康状態が違って来ます。和顔愛語 || 笑顔で優しく話すと楽しく元気になるが、思い通りに行かずに怒ると『怨憎会苦 || 恨み憎む心で人と会う苦』となり、心が疲れ病気になるります。自分の思い通りにしたいとの我執が、『縁起の道理』に背くから苦悩するのだと目覚め・自分を厳しく見直さない、と仏教は説きます。

主な参考資料

- (1)古田和弘(著)『現代を生きる仏教入門』月刊・同朋 2015年7〜10月号、p.25〜27、東本願寺出版部。
- (2)松原泰道(著)『新みちしるべ・解空』、仏教伝導協会・さんぼうの会、p.10〜14とp.62〜66(平成10年)。
- (3)西村恵信(著)『みちしるべ・正語』、仏教伝導協会、p.21〜26とp.166〜170(平成26年)。